令和4年9月1日

# 令和４年度　全国学力学習状況調査結果について

西原村教育委員会

令和4年4月19日に実施した全国学力学習状況調査の結果をお知らせします。

調査目的　義務教育の機会均等や一定以上の教育水準が確保されているかを把握し、教育の成果と課題などの結果を検証する。

対象学年　小学6年生及び中学3年生

調査期日　令和3年5月27日（全国集計完了８月）

調査項目　国語、算数・数学、理科、質問紙調査

内　容　小学校は、小学校5年生までの内容、中学校は、中学校2年間の内容

表示内容　正答者数の分布を示すグラフと本村の児童生徒の成果と課題

１【調査問題から】調査結果と分析した中味を以下に示します。

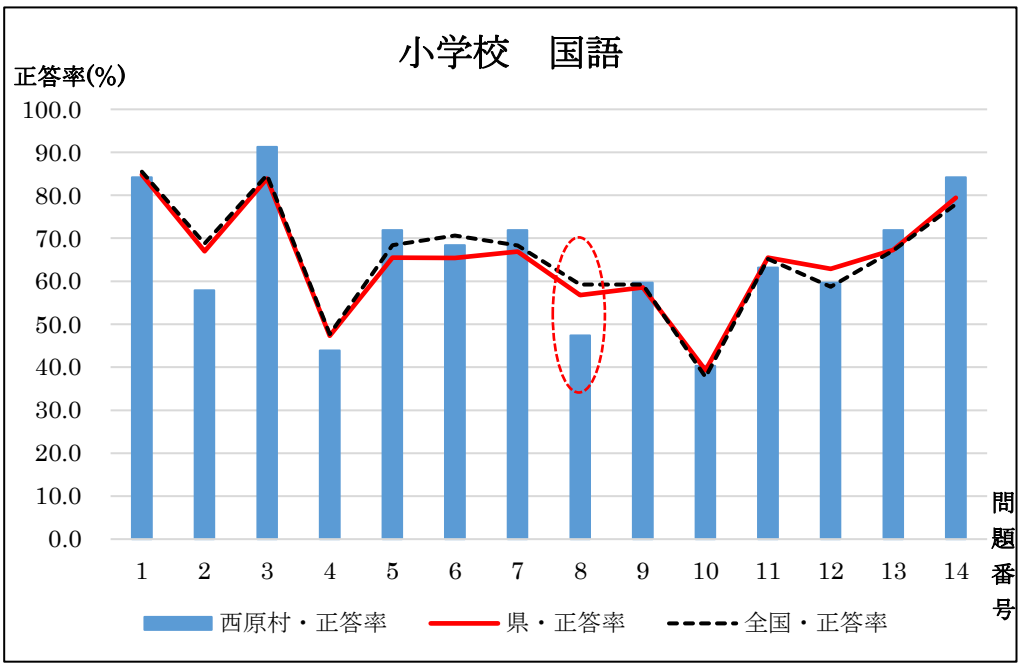



図１　小学校国語・問題別正答率（問題ごとの正答率比較）

小学校国語（図１）

◎[成果]：文章を読み、全体像を把握したり、表現に注意して文を整えたりすることについては全国を大きく上回る。（問題３）

▲[課題]：叙述の中にある登場人物の気持ちをとらえ、自分の考えをまとめることや、漢字を適切に使うことが全国値を大きく下回る。（問題８）

平均正答率（%）

村小学校国語（６５）県▲（６５）全国■（６６）

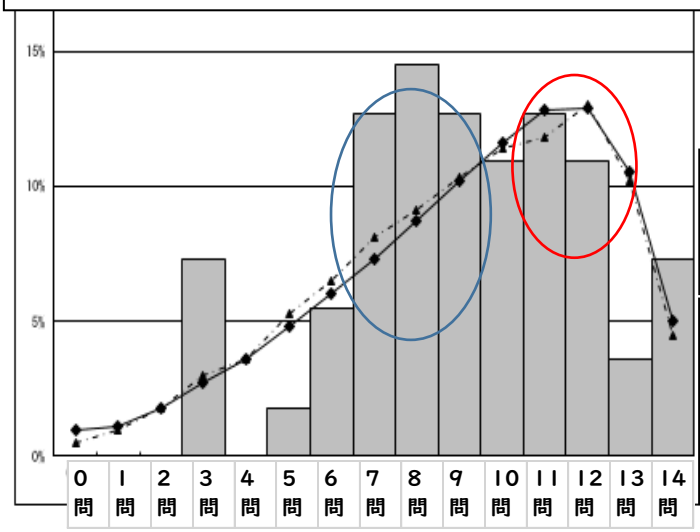



図２本村児童の国語正答数分布

◯は村の、◯は県・国の平均正答問題数が高い正答者率を示す。

縦軸：正答者率
横軸：正答問題数
正答問題数別平均正答者率

村の平均正答者率が高いのは７問～１１問で、県や国の平均正答者率が高い１１問～１３問に比べてやや低。

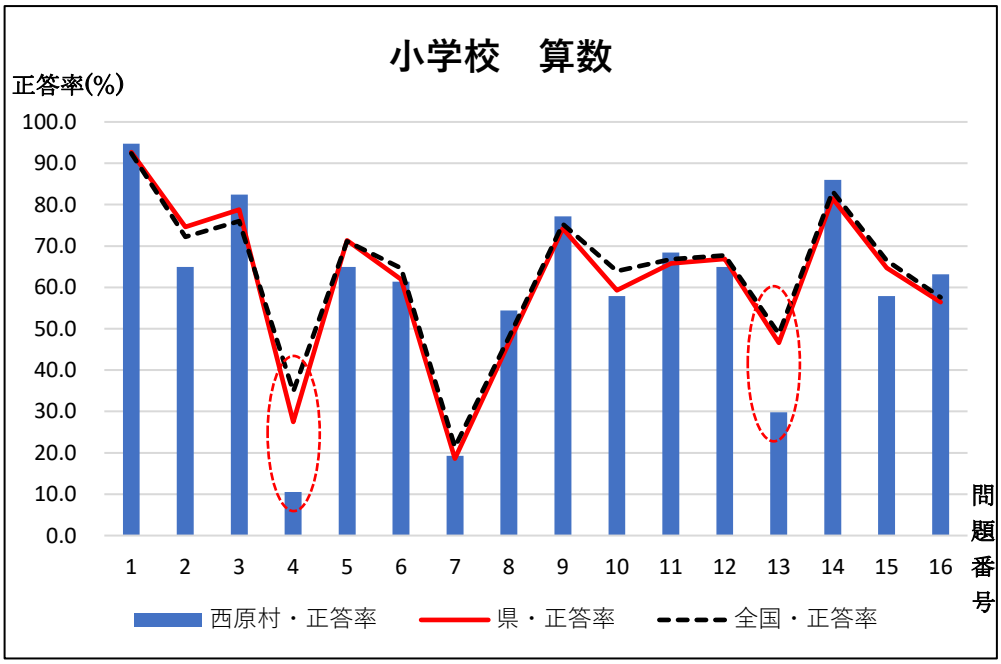



図3 小学校算数･問題別正答率（問題ごとの正答率比較）

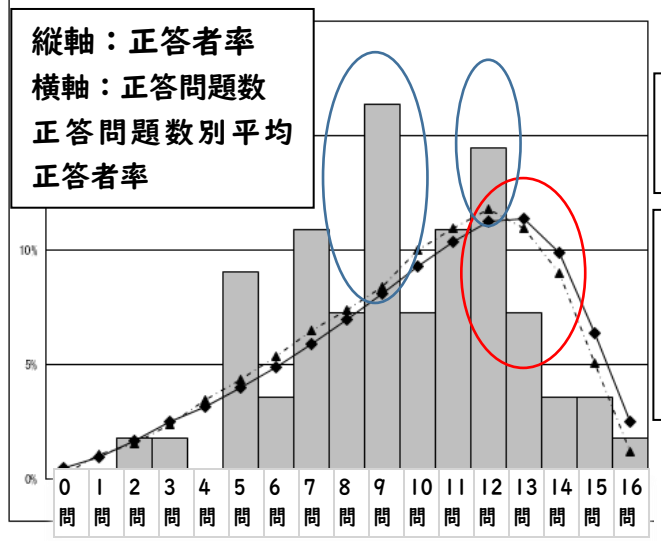
小学校算数（図３）

◎［成果］：百分率と分数の関係、表の意味を理解し数値を当てはめること、加法と情報が混合したポイント数の求め方等の理解度が全国を大きく上回る。(3, 9, 14)

▲［課題］：目的に合った数の処理や図形の性質の理解が全国値を大きく下回る。(4, 13)

平均正答率（%）

村小学校算数（６０）県▲（６２）全国■（６３）




○は村の、○は県・国の平均正答問題数が高い正答者率を示す。

村の平均正答者率が高いのはおよそ９問と 12 問で、県や国の平均正答者率が高い 12 問～13 問に比べて低い。

図４本村児童の算数正答数分布

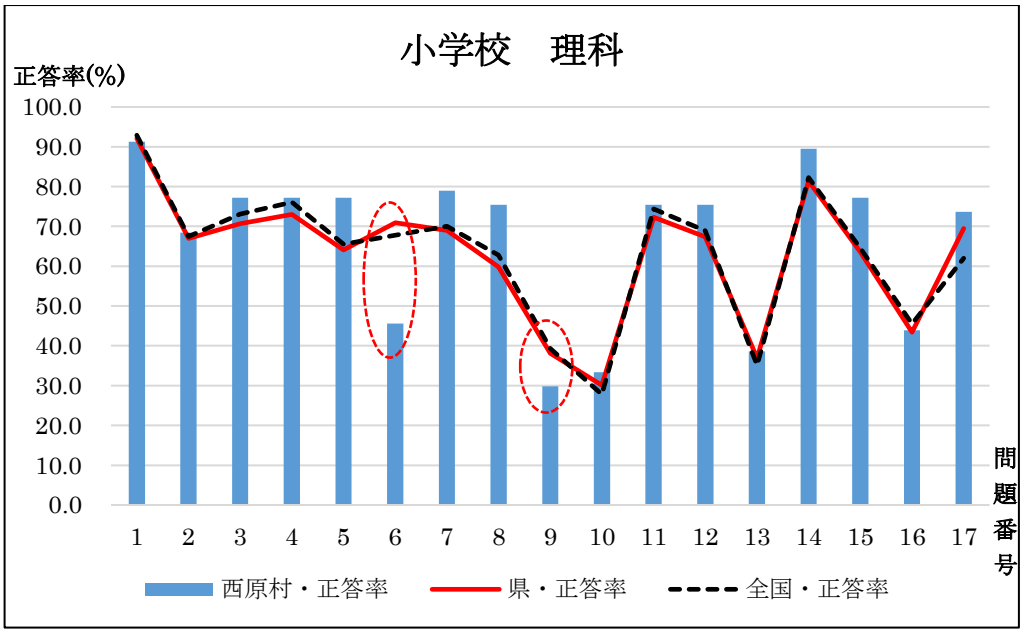



図5 小学校算数･問題別正答率（問題ごとの正答率比較）

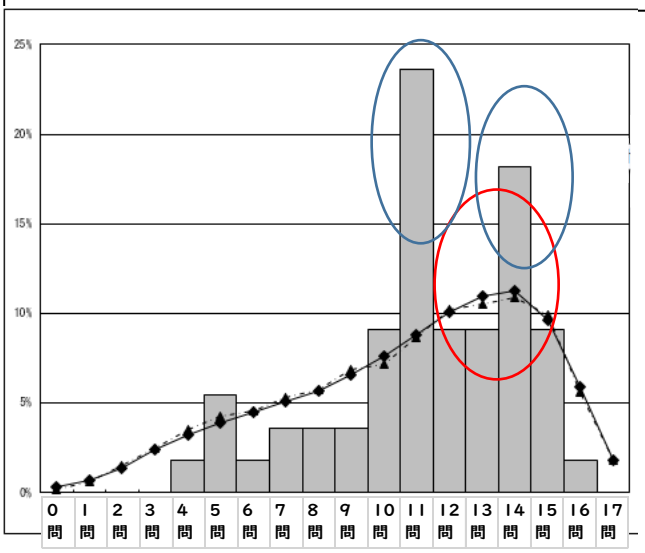
小学校理科（図５）

◎［成果］：実験結果の整理の仕方の理解や冬の天気と気温の関係を示した観察結果から自分の考えを持つことについて、全国平均を大きく上回る。(7,8,14)

▲［課題］：結果を導いた事柄から、理由となる事象を逆にたどることについて全国平均を下回る。(6,9)

平均正答率（%）

村小学校理科（６７）県▲（６３）全国■（６３）




◯は村の、◯は県・国の平均正答問題数が高い正答者率を示す。

平均正答者率が高いのは 11 問と 14 問で、県や国の平均正答者率が高い 14 問の正答率を６ポイントほど上回る。

図６本村児童の理科正答数分布

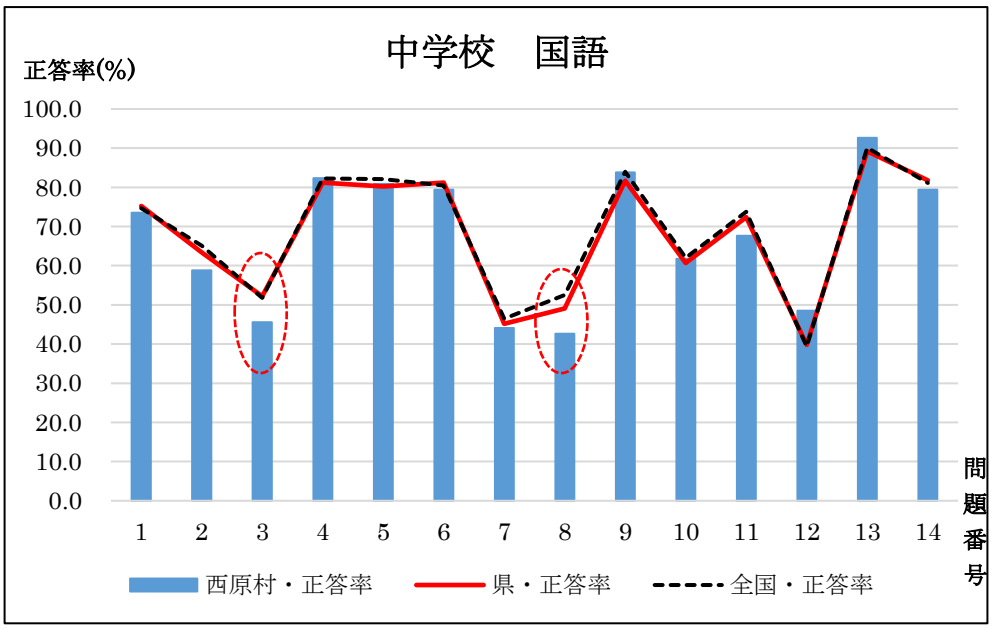



図7　中学校国語･問題別正答率（問題ごとの正答率比較）

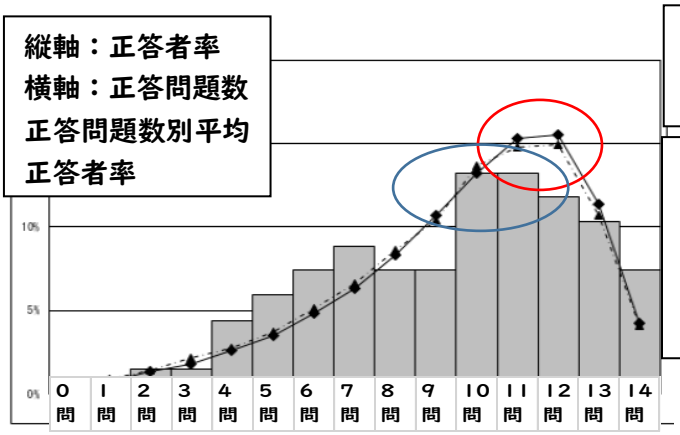
中学校国語（図７）

◎［成果］：助動詞を目的に応じて使うことや、文脈に即した正しい漢字を書く、目的に合わせた文章を作成する事については、全国平均を上回る。（問題 4，13 番）

▲［課題］：比ゆ表現や心情を表す語句についての理解、漢字の書体の特徴を示す説明文の読み取りが全国平均を下回る。　（問題３，８番）

平均正答率（%）

村中学校国語（６７）県▲（６８）全国■（６９）




◯は村の、◯は県・国の平均正答問題数が高い正答者率を示す。

村の平均正答者率が高いのは10問と11問で、県や国の傾向と同じであるが、村の正答者率が４ポイントほど下回る。

図８本村生徒の国語正答数分布

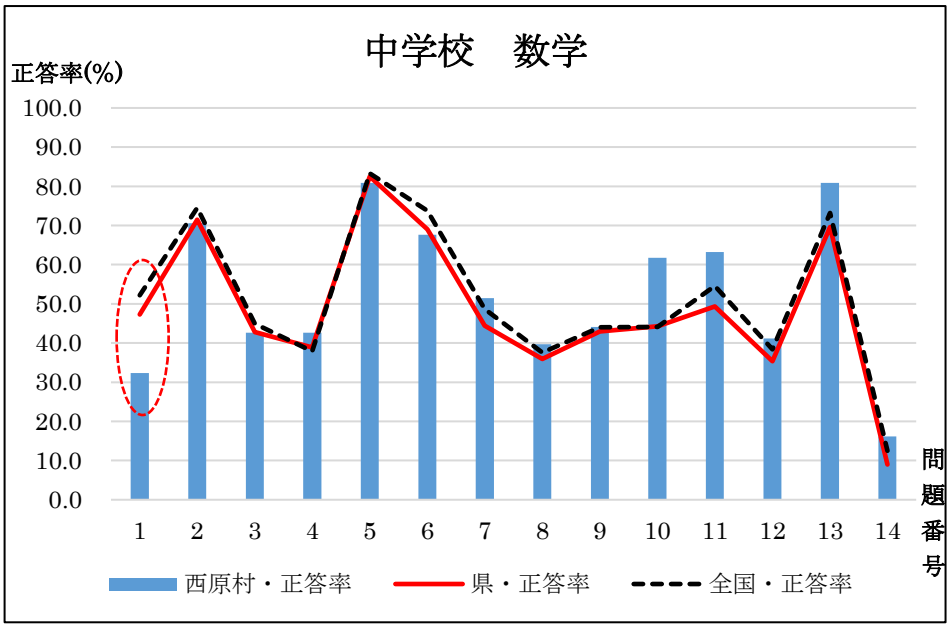



図9　中学校数学･問題別正答率（問題ごとの正答率比較）

中学校数学（図９）

◎［成果］：二次方程式を解く、一次関数の意味、反比例の意味の理解やグラフから必要な情報を読み取ること、合同条件等の理解等について全国平均を上回る。（10，11，13）

▲［課題］：偶数の和が４の倍数になることを［２ｎ］を用いて説明することが全国平均を大きく下回る。（問題１）

**平均正答率（%）**

**村中学校数学（５３）県▲（４９）全国■（５１）**

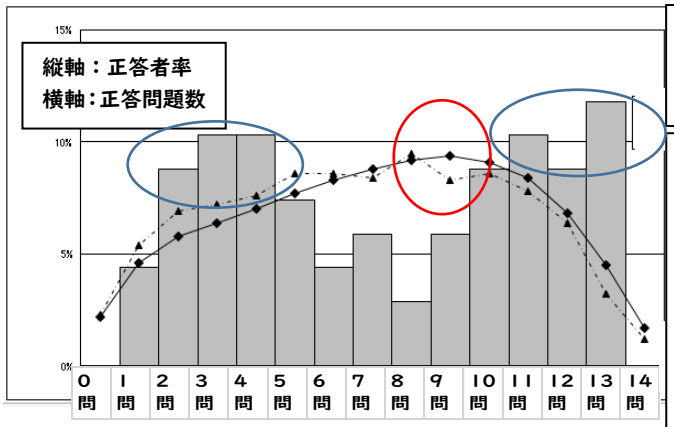



**図１０本村生徒の数学正答数分布**

**○は村の、○は県・国の平均正答問題数が高い正答者率を示す。**

**村の平均正答者率が高いのは 3, 4 問と 13 問の２コブに別れているのに対し、県や国の平均正答者率 9 問であり、村の正答者率が非常に高いことを示す。**

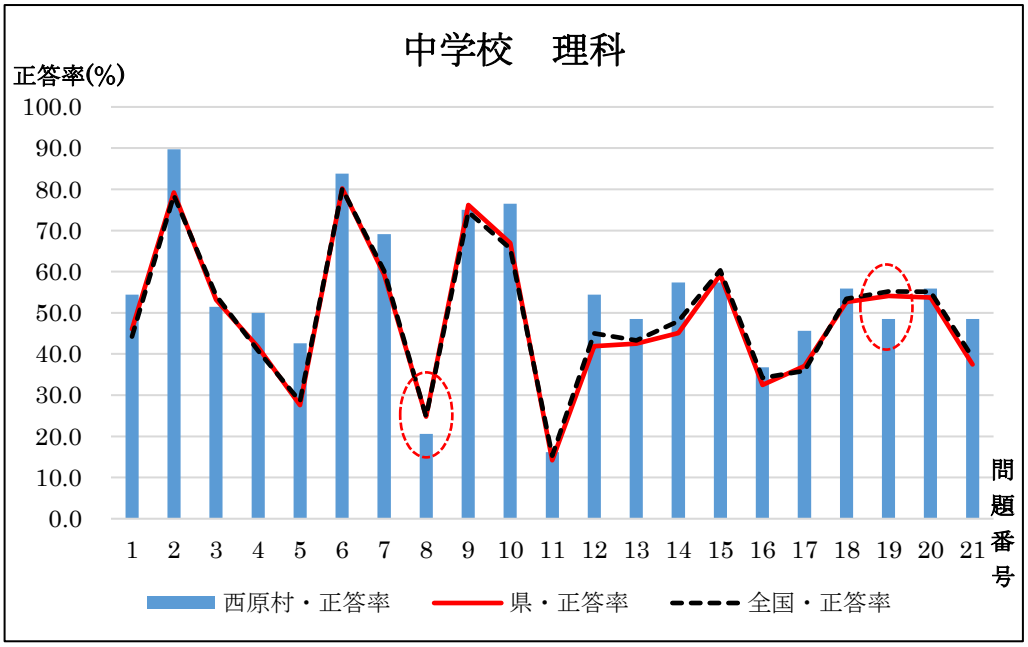



**図11　中学校理科･問題別正答率（問題ごとの正答率比較）**

**中学校理科（図１１）**

**◎［成果］：モデル図から化学反応式を作成することや、生物の観察結果から相違点や共通点等の考察の妥当性を判断したりすることが全国平均を大きく上回る。（問題 2, 10, 12, 14）**

**▲［課題］：気圧の概念を空気の柱で説明することや、水の電気分解を粒子の保存性から説明することが全国平均を下回る。（問題 19, 8）**

平均正答率（%）

村中学校理科（５４）県▲（４９）全国■（４９）

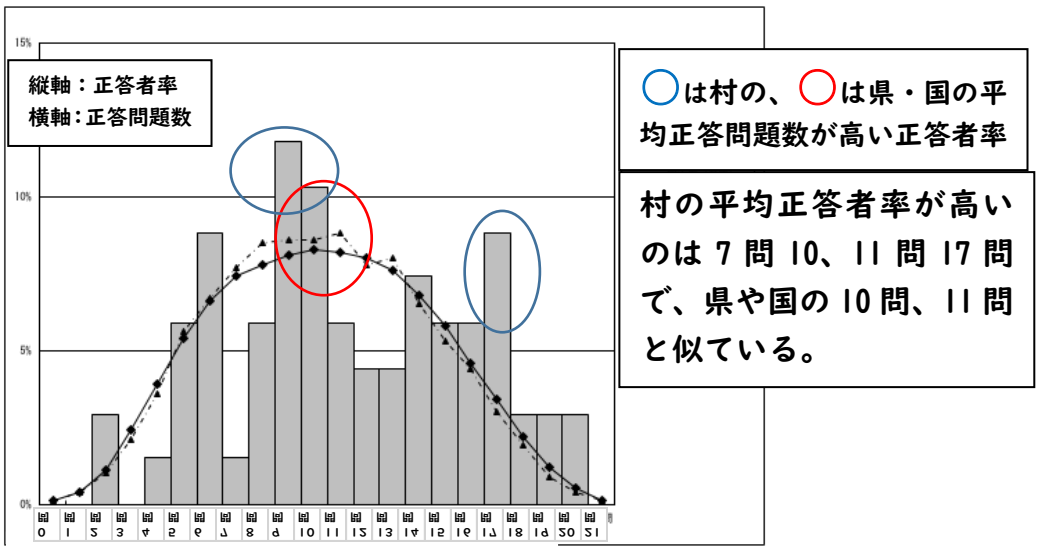



図１２　本村生徒の理科正答数分布

## ２【質問紙調査から】

クロス集計結果（2つの質問を掛け併せて集計する方法の結果）から見られた傾向を示します。

【用語の説明】

① クロス集計　例「朝食を毎日食べていますか」の質問結果と教科の正答率との関係

② 相関関係　例　朝食を毎日とっている児童生徒の正答率が高い場合「相関関係が認められる」と表示します。

## 【小学生の結果】特に相関関係が認められた項目

◇生活や地域との関わりに関係すること

・朝食を毎日とっている子どもや寝る時間が決まっている子どもと正答率の高さ。

・携帯・スマホ・コンピュータの使い方を守っている子どもと正答率の高さ。

◇性格や将来への希望に関すること

・自分には良い所があると思うと答えた子どもと正答率の高さ。

・先生が自分の良い所を認めてくれていると思った子どもと正答率の高さ。

・人の役に立ちたいと思っている子どもと正答率の高さ。

◇学校生活や授業のあり方に関すること

・学校が楽しい、読書が好きと答えている子どもと正答率の高さ。

・分からない所があったら誰かに聞くと答えた子どもと正答率の高さ。

・学習した内容を、よく分かった点と分からなかった点を見直し、次の学習につなげている子どもと正答率の高さ。

## 【中学生の結果】相関関係が認められた項目

◇生活や地域との関わりに関係すること

・朝食を毎日とっている生徒や寝る時間、起きる時間が決まっている生徒と正答率の高さ。

・コンピュータやゲームの使用時間が４時間以上と全く使用しない生徒では各教科約２倍程度の正答率の差がある。

・スマホや携帯の使用頻度が４時間以上と３０分以下の生徒では各教科約 1.5 倍程度の正答率の差がある。

・新聞を週３日以上読む生徒と正答率の高さ。

◇性格や将来への希望に関すること

・自分には良い所があると思っている生徒と正答率の高さ。

・先生が自分の良さを認めてくれていると思っている生徒と正答率の高さ。

・難しいことでも失敗を恐れずやり遂げようとしている生徒と正答率の高さ。

・学校のある日、学校以外で３時間以学習している生徒と正答率の高さ・・・数学と理科では相関関係が認められる。

・学校が休みの日、３時間以上学習すると答えた生徒と正答率の高さ・・・国語・数学・理科全てに相関関係あり。

◇学校生活や授業のあり方に関すること

・自分から進んで発表すると答えた生徒と正答率の高さ。

・授業中、課題解決に向けて自分から取組んだり、自分の考えをまとめたりした生徒と正答率の高さ。

・授業中、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行った生徒と正答率の高さ。

ご家庭でのご指導よろしくお願いいたします。

※ 楽しく充実した学校生活や家庭生活をおくることが、学習効果を上げるようです。

① 「あなたには良いところがあるんだよ」と勇気づける言葉をお願いします。

② 朝食、起床、就寝時間、ゲームやスマホの使用時間を決めて実行しましょう！

③ 家庭学習は学校の復習や予習のための時間です。

④ 分からなかった所はその日のうちに解決しておきましょう。